

古墳の大きさ

西都原古墳群で一番大きい古墳はどの古墳でしょう。



男狭穂塚

日本最大の帆立貝形古墳

墳丘長 約176m

(地中レーダー探査の結果)

高さ 19.1m

円丘部 132m

築造時期 5世紀前半

説

古事記・日本書紀にみられる神話のアマテラスオオミカミの孫ニギノミコの墓という言い伝えがある。

女狭穂塚

九州最大の前方後円墳

墳丘長 約180m

(地中レーダー探査の結果)

後円部径 96.1m

後円部高さ 14.6m

前方部幅 109.5m

説

ニギノミコの妻コノハナサクヤヒメの墓という言い伝えがある。

男狭穂塚・女狭穂塚について(西都原考古博物館の方のお話)

男狭穂塚は、地方の伝承では、ニギノミコの墓といわれていますが、いろいろな説があって、カミナガヒメの父モロカタノキミウシモロイの墓だという説もあります。

女狭穂塚は、コノハナサクヤヒメの墓と伝承されていますが、仁徳天皇の妃であったカミナガヒメの墓ではないかとも考えられています。

男狭穂塚と女狭穂塚は、陵墓参考地(天皇家の先祖の陵墓である可能性がある場所)として立入り禁止区域となっています。平成16年～18年まで地中レーダー探査や電気探査による調査が実施されて正確な墳形がわかりました。調査の結果、男狭穂塚と女狭穂塚は重複が認められずそれぞれ独立した古墳であることや、女狭穂塚には171号墳にかけて周溝を横切る通路と考えられる「渡り土手」があることなど詳しい古墳の形が明らかになりました。